

平成27年度物流分野におけるCO₂削減ポテンシャル等に関する調査委託業務

共同輸配送促進に向けた マッチングの仕組みに関する検討会

第2回資料

平成27年11月 4日

目次

1. 継続運用 参加確定企業のご報告

※今年度継続運用期間は、11/9(月)～2/12(金)

2. 継続運用の取組

3. 改修後マッチングシステムのデモンストレーション

4. 28年度 運営組織の特性について

添付資料1：運用マニュアル

添付資料2：オペレーションマニュアル

添付資料3：アンケート用紙

1. 継続運用 参加確定企業のご報告

参加企業数の予定と参加時期

～第1回検討会資料再掲～

参加企業数の予定	H26年度 参加企業		H27年度 追加分		H27年度 参加企業数 (目標)
荷主企業	7社	+	20社程度	=	27社程度
物流事業者	8社	+	20社程度	=	28社程度

参加時期		7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	参加依頼候補企業への打診 (環境省様よりメール/郵送にて打診)				●	→																			
	参加依頼候補企業の確定 (事務局が訪問の上、依頼内容説明)												●												
3	参加確定企業へのオペレーション説明															●									
	継続運用															●	→								
	追加募集 (※)															●	→								

(※)運用開始時点で目標企業数に達しない場合は、運用開始後に順次追加募集を検討。

追加参加候補企業抽出の概観

登録情報のエリア分散を避ける エリアをフォーカス

① マクロデータ分析実施結果

- ・愛知県にある荷主/物流事業者
- ・兵庫県にある荷主/物流事業者
- ・岡山県にある荷主/物流事業者

&

② 都市部の商圈

- ・関東地方にある荷主/物流事業者
- ・東海地方にある荷主/物流事業者
- ・関西地方にある荷主/物流事業者
- ・九州北部地方(福岡)にある荷主/物流事業者

追加参加候補企業を抽出する 抽出データの原資

H25年度事業 アンケート回答企業様

- ・荷主： 29社に絞込み
(前回検討会でご報告済)
- ・物流事業者： 12社に絞込み
(前回検討会でご報告済)

&

JILS 会員企業様

愛知/兵庫/岡山/福岡 会員企業様

第1回検討会后、
JILS様より会員企業をご紹介頂き、参加を打診
(荷主：37社 物流事業者：45社 合計82会社)

追加参加企業 最終候補企業数 (アンケート回答企業とJILS会員企業様に重複あり)

■ 荷主企業： 57社

■ 物流事業者： 47社

合計： 104社

確定!

追加参加企業数

※リスト次頁参照

■ 荷主企業： 10社

■ 物流事業者： 10社

合計： 20社

追加参加企業数(本日時点)

	昨年度参加企業 (全参加企業が継続参加)	追加参加企業	合計	目標数	追加募集
荷主企業	7	10	17	27	10
物流事業者	8※	10	18	28	10
合計	15	20	35	55	20

※昨年度参加のセンコー様は物流事業者にスライド(前回検討会でご報告済)

【追加募集に向けた対応】

①モーダルシフト補助事業・グリーン物流パートナーシップ会議
受賞企業へ依頼可否を検討中

②物流業界団体等への依頼

★委員の皆様には物流事業者のご紹介をご依頼する場合があります。
その際は、ご検討のほど、何卒よろしくお願い致します。

※上述①②の状況を見据えて決定。ご依頼の際は別途にお伺いいたします。

2. 継続運用の取組

検証用マッチングシステム試行の取組み

試行期間：11/9(月)～2/12(金)

今年度マッチングシステム試行の目的：

昨年度整理した改修項目の有用性も含め、
更に効果的、かつ利便性の高いマッチングシステムの在り方を継続検証

【目的達成に向けた取組み①・・・期間中、円滑にシステムを利活用して頂く為の取組み】



【目的達成に向けた取組み②・・・マッチングシステム利活用後に問題/課題を洗い出す取組み】



【サポートセンターの3つの役割】

- ①継続運用期間中の『マッチングシステム運用面の質問』『マッチングシステム オペレーション面の質問』『マッチングシステムの不具合』等 **継続運用時の全般に亘る問い合わせ対応**
- ②ログインしていない/登録件数が少ない等、**継続運用期間中の利用実態※をモニタリング。**
※閲覧件数/登録件数/メール件数等、22の指標を設定済み
利用率の低い企業と連絡をとり、活用を依頼。必要に応じ訪問のうえシステム利活用の依頼を実施。
- ③**登録情報の内容を確認/分析し、マッチングの可能性のある情報(※)を関係企業に情報発信。**
※登録データのOD(From/To)を分析。
・OD(From/To)が合致するもの(××地方レベル)をメールにて参加企業に情報発信。

■ 運用サポートセンター 連絡先

メールアドレス : fri-moe@cs.jp.fujitsu.com

電話番号 : 03-5401-8394

担当 : (株)富士通総研

ビジネスアナリティクス事業部 沖原 ・ 山根

ご参考) KPI詳細定義表

KPI	定義(算出)		最終取り纏め単位
閲覧回数	見る	①閲覧企業別・ユーザー別の『ログイン回数(ログインボタンを押した回数)』	日別・午前/午後別
		②閲覧企業別・ユーザー別の『検索回数(検索ボタンを押した回数)』	日別・午前/午後別
		③閲覧企業別・ユーザー別・登録物流情報別の『詳細確認回数(詳細を確認するボタンを押した総回数)』	日別・午前/午後別
	見られる	④登録企業別・登録物流情報別・閲覧企業別の『照会された回数(詳細を確認するボタンを押された回数)』	日別・午前/午後別・・・③に同じ 切り口を変えただけ
登録全件数		⑤登録企業別・ユーザー別・貨物/車両情報区分別・連絡事項別の『物流情報登録件数』 ～削除/編集を考慮せず～	日別 と 2週間トータル
		⑥登録企業別・ユーザー別・貨物/車両情報区分別の『物流情報削除件数』	日別
異業種登録件数		⑦品目名別・部門名別の『物流情報登録件数』・・・貨物情報のみ	2週間トータル
検索機能利用件数		⑧閲覧企業別・ユーザー別の『検索回数(検索ボタンを押した回数)』	2週間トータル・・・②の合計値
		⑨閲覧企業別・ユーザー別の『固定条件として反映させる+固定条件として登録する の合計回数』	2週間トータル
		⑩自拠点エリア内貨物情報を選択した回数	2週間トータル
		⑪鉄道・船舶の詳細情報を閲覧した回数	2週間トータル
メール送信件数		⑫閲覧(送信)企業別・閲覧企業ユーザー別・受信企業別の『メール送信件数』	日別
		⑬閲覧(送信)企業別・紐付け物流情報別・受信企業別の『メール送信件数』	2週間トータル
メール受信件数		⑭受信企業別・受信企業ユーザー別・閲覧(送信)企業別の『メール受信件数』	日別・・・⑩に同じ 切り口を変えただけ
		⑮登録企業別・登録物流情報別・閲覧(送信)企業別の『メール受信件数』	2週間トータル
マッチング成立件数		⑯マッチング成立件数	日別
		⑰登録企業別・マッチング先企業別の『マッチング件数』	2週間トータル
		⑱登録企業別・鉄道船舶企業別の『マッチング件数』	2週間トータル
類型別マッチング件数		⑲ 車両情報 登録企業別・連絡事項等(積み合わせできる貨物を探したい/車扱いで...)別の『マッチング件数』	2週間トータル
		⑳ 貨物情報 登録企業別・連絡事項等(積み合わせできる貨物を探したい/積み合わせできる車両...)別の『マッチング件数』	2週間トータル
		㉑ 鉄道・船舶情報 登録企業別・連絡事項等(積み合わせできる貨物を探したい/積み合わせできる車両...)別の『マッチング件数』	2週間トータル
CO2排出量登録件数		㉒ 共配を実施し、CO2排出量を登録した件数	1か月単位

アンケートについて

1. 実施目的

継続運用結果を踏まえ、効果的かつ利便性の高いマッチングシステム構築に向けた問題/課題を洗い出す

2. 実施先

継続運用参加企業様 全社

※事前にアンケートをご持参のうえ、確認ポイントの情報共有を実施済み

3. アンケート全体像

昨年度からの継続性を踏まえ原則として同様。 但し下表の赤字部分は新たに追加。

【把握する項目 1】 利活用実態の把握

【把握する項目 2】 利活用促進の為の問題/課題の把握

利活用を阻んだ要因

利活用を加速させる要因

「ICT」を「人」が使って、業務の「プロセス」を実行

ICT

人(企業)

プロセス

①システムから自動取得できないKPI

- ・電話等で問合せをした件数と内容
- ・電話等で問合せを受けた件数と内容
- ・実際に話し合いに到った件数と内容

②システム操作性の確認

- ※オペレーションの分かりやすさ
- ・システムのアイコン表示がどうか？
- ・オペレーションに係る作業負荷がどうか？
- ・その他感想 (個々画面/全体遷移)

③システム仕様の確認

- ※情報登録項目確認 (マッチング実現の条件)
- ・不要な情報登録項目
- ・漏れている情報登録項目
- ※新たに追加した機能の有用性確認
- ・自拠点エリアの貨物情報検索
- ・鉄道、船舶情報閲覧
- ・距離算定機能

④自社に係わる要因 (活用の阻害要因)

- ※品目
- ・そもそも共配が困難な品目である
- ※設備
- ・そもそも共配が困難な車両である。
- ※担当者
- ・業務多忙でシステムを試行活用する時間が無かった
- ※状態
- ・そもそも共配検討する案件そのものが自社になかった 等

⑤他社に係わる要因 (活用の阻害要因)

- ※共配を検討したい情報が登録されてなかった → 検討対象ではないと判断した要因 (項目)は何か？
- ※共配を検討したい情報が登録されており、メール送信したが返事なかった

⑥システム運用プロセスに於ける要因

- ※システム運用プロセス
- ・簡易掲示板の有用性

⑦共配実現プロセスに於ける要因

- ※共配実現プロセスに於けるマッチングシステム活用の位置づけ。
- ・マッチング方式 掲示板・コーディネート 等
- ・システムの活用シーン
- ・CO2削減に向け 幹線/地場のどちらに効果を期待をしているか？
- ※事務局から情報発信の有用性
- ※モーダルシフトへの取り組み状況
- ※今後、共配拡充に向け展開しようと考えている施策
- ※今後、CO2削減に向け展開しようと考えている施策

⑧インセンティブアイデア出し

- ※インセンティブが利活用促進を促すか？
- ※促すのであればインセンティブはどのようなものであって欲しいか？
- ・アイデア出し

アンケート回答依頼先 : マッチングシステムを実際に活用・操作頂いた方へのアンケート

共配促進の企画・管理をなさる方へのアンケート

アンケートの目次構成

※添付資料3『アンケート用紙』

A. 実際にマッチングシステムを活用・操作頂いた方へ

1. システムの分かりやすさ・操作性について
 - ・アイコンの分かりやすさ
 - ・オペレーション負荷
 - ・検索機能の有用性について
 - ・自拠点エリア内貨物情報一覧の有用性について
 - ・鉄道・船舶の情報の有用性について
 - ・CO2排出量を試算する機能の中の距離算定機能の有用性について
2. システムに登録する情報項目について
 - ・共配検討に不要と思われる情報項目
 - ・共配検討に漏れている情報項目
3. システムを利活用するうえで感じた問題点について
 - ・システムの利活用を阻んだ要因
4. 問い合わせ件数について
 - ・電話で問い合わせをした件数と内容
 - ・電話で問い合わせを受けた件数と内容
 - ・現在、話し合いを進めている件数と内容
5. 試行全体に係わるご意見

B. 共配促進に向けた企画・実行管理をなさる方へ

1. CO2削減を目的とした共配実施のニーズについて
 - ・共配によるCO2ニーズの輸送
2. モーダルシフトの取り組み状況
3. 共配実現に向けたプロセスについて
 - ・あって欲しいマッチング方式について
 - ・簡易掲示板について
4. サポートセンターからの情報発信について
 - ・発信した情報の活用有無について
5. インセンティブについて
 - ・ありがたいインセンティブ案について
6. 今後の共配拡充に向け取組む施策について
 - ・今後の取組み内容
7. 環境負荷(CO2削減)に向け取組む施策について
 - ・今後の取組み内容

※アンケート送付：2月15日(月)

※アンケート回収：2月26日(金)

3. 改修後マッチングシステムのデモンストレーション

※プロジェクター投影によりご説明

※添付資料2『オペレーションマニュアル』をご欄下さい。

4. 28年度運営組織の特性について

マッチングシステムを運営する組織検討の全体像

28年度以降にマッチングシステムを運営する組織を検討するにあたっての全体像を示す。

<凡例>

- 国交省様アクション
- 打診を受けた組織アクション

継続試行

課題整理

- ・システムの課題
- ・マッチングの課題
- ・共配そのものの課題

運営組織特性整理

運営組織の組織体整理 (業界団体/民間等)

調査結果の公表

公表内容を見て個別に国交省に確認のあった企業

打診

個別に打診/依頼 (27年度より先行で実施)

27年度事業にて整理公表した共配実現やマッチング実現課題の解決、更にマッチングシステムの利活用も含め、共配実施/促進に向けた取組みに関する意向を打診。

打診を受けた組織単位の内部で検討

第1ステップ) 可能性の検討

組織としての『共配実現/促進に向けた対応の可能性』を探る。

マッチングシステムの利活用も視野に、その使い方(使えるシーン/使い道)についての検討。

第2ステップ) 具体的対応策の検討

組織としての『共配実現/促進に向けた具体的対応策』を探る。

<対応策 例>

- ・出会いの場を提供するビジネス展開
- ・異業種を対象とした共配サービス展開

運営組織毎対応展開

26/27年度事業 (~今年度)

平成28年度 (来年度)

マッチングシステムを運営する組織の特性

運営候補組織の前提 : **法人格を有する組織を対象として検証。法人格を有さない任意団体は除く。**
└ 株式会社・合同会社・社団法人・財団法人・NPO・事業組合

組織運営の3要素

【要素1】 戦略

組織の戦略に係わる要素

- ・経営ビジョン
- ・経営戦略
- ・業務戦略 等々

【要素2】 業務

戦略達成に向け、
各種業務を企画し実行。
ナレッジの蓄積も実施。

【要素3】 共通

業務推進基盤となる 共通的な要素

- ・情報セキュリティ
- ・知的財産 等々

28年度以降マッチングシステムの運営組織の特性

26/27年度の
事業目的を
踏襲できる

- ① CO2削減を積極的推進し環境貢献をする意思有り
- ② ロジ改革/業界発展等の視点を持っている

③ 公平性を有する

特定の企業に対して有利、不利な扱いをすることなく業務を実施

④ 物流に関するノウハウ・知識を有する

物流業務/共同輸配送/モーダルシフトに関するノウハウ・知識

⑤ 業務遂行のインフラを有する

複数業界荷主、及び物流事業者とのチャネル基盤を有している

⑥ 与信に関するノウハウ・知識を有する

複数企業が関与するマッチングに於いて、与信のノウハウ/知識

⑦ 情報セキュリティが担保されている

セキュリティポリシーが策定されており、社内策定の情報管理規定や
第三者認証(ISMS/Pマーク等)も取得している。

マッチングシステムを運営する組織の組織体整理

28年度以降に個別に運営候補組織に対して打診をするにあたり、その対象とする組織体を整理

種別	区分 (下記の複数区分を実施している組織あり)	打診対象	
1. 物流業界団体	① 物流全般系 (*1)	○	
	② 陸運・鉄道系	○	
	③ 海運系	○	
	④ 倉庫系	○	
	⑤ 航空系		
	⑥ 港湾系		
	⑦ 容器系		
2. 物流関連の民間企業	① 総合物流事業 (*2)	a. 共配サービス提供	○
		b. 納品代行	○
		c. 3 PL	○
	② トラック輸送事業 (下記⑬～⑮を除く)	○	
	③ 鉄道貨物輸送事業	○	
	④ 海運事業	○	
	⑤ フォワーディング事業	○	
	⑥ 普通倉庫事業	○	
	⑦ 冷蔵倉庫事業		
	⑧ トラクルーム事業		
	⑨ 港湾運送事業		
	⑩ 引越し事業		
	⑪ 航空貨物輸送事業		
	⑫ 宅配便事業 (国内・国際)		
	⑬ 特別積合運送事業		
	⑭ 軽貨物輸送事業		
	⑮ バイク便輸送事業		
⑯ 求貨求車システム事業 (情報システム提供 ITベンダー)	○		
⑰ 物流不動産事業	○		

種別	区分 (下記の複数区分を実施している組織あり)	打診対象
3. その他民間企業	① 物流を機能して事業展開している企業 (卸等)	○
	② 物流を自社で実施している荷主企業	○
	③ 情報系の共有インフラを提供している企業	○
	④ 損害保険事業を展開している企業	○

*1)物流全般系 1 項記載の②～⑧の区分に特化せず、物流全域を対象として活動している団体

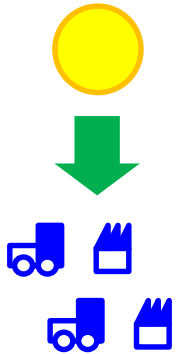
*2)総合物流事業： 特定荷主の物流業務を一括で請け負う 3 PL を展開している企業や、納品代行、また共配サービスを事業として展開している企業を、便宜的に呼称として使用

マッチングシステムを使う形態について

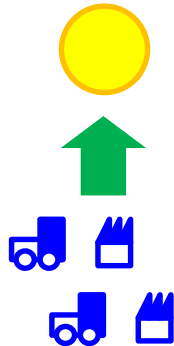
● マッチングシステムを使う主体

マッチングシステムを使う形態 例1

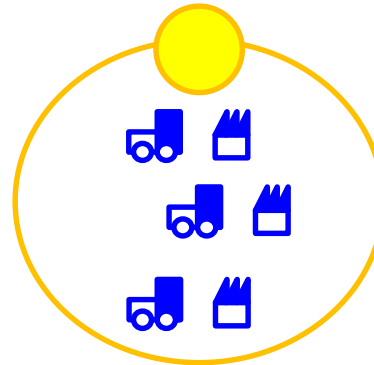
マッチング事業
開始周知



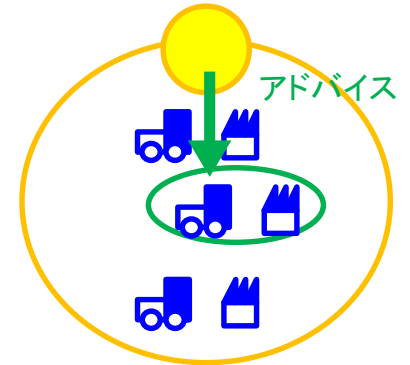
参加回答



出会いの場の提供

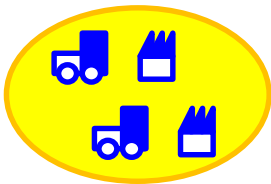


出会い支援
及び
共配成立支援

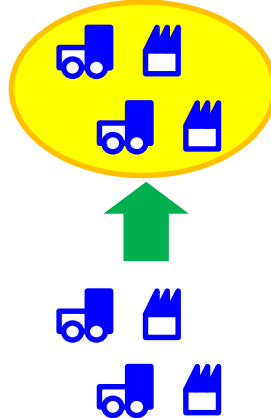


マッチングシステムを使う形態 例2

複数企業で共配を開始



追加の参加企業



共配の更なる拡充

